完全燃焼のハードル　意地の槍投げ　関東総体

２日目まで天候を維持した宇都宮関東だったが、３日目になって空は泣き出した。今日は黒須の槍投げがある。

黒須は知らないだろうが、春高は新規格の槍でまだインターハイに出場したことがない。・・・というより５０ｍを越えたのは１６年前の石田しかいないのだ。この石田でさえインターハイは出場ならなかった。

★ 私の腰痛を救った家族

相変わらずの私の腰痛で、観戦をあきらめようかと思った日曜日であったが、家族が送迎してくれると言い出した。

現在子供たちは、毎週春高のグラウンドで春高会Ｊｒチームとして練習している。槍投げの黒須を幾度も見ているし、「応援したい」という運びになったのだ。
私は黒須選手について小学生の子供たちにこう説明した。
「いいか、黒須くんはね、槍投げで６０ｍも投げるんだ。
ボール投げなら１００ｍくらい投げられる。すごい努力家だろう？」

昨今の小学生の体力は低下著しく、ボール投げは特に低調。歴代最も弱い年代とされている。全日本小学生大会（日清カップヌードル大会）では小学生規格で８０ｍ近く投げる突出した６年生もいるが・・・小学３年生の平均で１０ｍほど、６年生男子でも平均３０ｍにも届かないらしい。

そのボール投げで１００ｍ近く投げると聞くと、子供らは驚愕した！

「ええっ！校庭から出ちゃうよ！」

「昨年はがんばって新人戦という試合で関東大会１番になった。
今年はケガをしていて苦しんでる。この試合で６位にならないと念願のインターハイに行けないんだ。」

それを聞いた子供らは、「じゃあ応援しよう！」・・・・ということになったのだ。

★ 高石はファイナリストに

走るたびに自己記録を更新する高石。４００mHで予選から５５秒１４の自己新記録で決勝に駒を進めて見せた！
決勝では５５秒４１の８位で「関東大会入賞」という輝かしい称号を手に入れた。

続く最終日の１１０mHでも快走！準決勝で１５秒５４の自己最高記録をマークした。決勝には届かなかったが、両ハードル種目でベスト記録をマークしての今大会成績だから、悔いはあるまい。多くの選手がプレッシャーに負ける中、完全に実力を出し切ったのであった。
高石の昨年までのベストは１１０mH１６秒３０、４００mH５７秒６１だったのだ。苦しい冬季練習が実を結んだすばらしい結果であった。

★ 降雨の熱闘

大雨の中始まった北関東槍投げ。屋根が小さいこの競技場では雨を傘で凌ぐしかない。６歳の息子では無理だ。風邪を引く恐れがある。よって長女と二人で観戦することにした。

そもそも、なぜ腰痛だと観戦できないのかと、みなさまは思う事だろう。
その原因は、背もたれのない競技場のベンチ、そして一番の要素は「重いカメラ」なのである。

長いズームレンズを装着した一眼レフ。重さはキロを越える。携帯サイズのデジカメとは異次元の重さだ。それを運び、体重軸から離れた顔の前で、静止して長時間構える・・・腰は悲鳴を上げるのだ・・・

黒須は第３投擲者だった。

背中の第２コーナースタンドにはチームメート達が傘をさして気合をかける。

まず１投目、確実に記録を残したい。

雨足が強まった。

キッと集中して、黒須が駆け出す。

スピードに乗る。

安全策にやや手前から鋭い槍先を放出した。

大きく弧を描きながら５０ｍを越えたところに突き刺さった。

「よし！」まずはエイトには届くであろう距離だった。

「５３ｍ３８ｃｍ」

彼にとっては簡単な距離に思えるが、雨ですべる走路、握りにくいグリップ、
新人優勝者として全員が注目する中での１投げ目だ。まずは上々。

１投目を終えて２位であったが、そのまま終わるはずも無い。

黒須は２投目で記録を伸ばせなかった。
しかし県大会のような故障擁護策をとっている場合ではない。
もちろん６回全て投げる。
漏れたらインターハイの切符は入手できないのだから・・・

しかし、１投目で記録を残したライバル達は、２投目で記録を伸ばすという
定石通りの試技をしてきた。

なんと２回目が終わって、黒須は７位まで順位を落とした。

もう冷や冷やだ・・・

しかし黒須とて幾度の戦いを踏んできた選手。
記録の数値からしても、想定内の事だと分かっているだろう。

いよいよ３投目が回ってきた。

ここで雨足が強まった。

「黒須さんが記録を出すときは雨が強くなるよ・・・記録出るんじゃない？」
と娘はポツリと言った。

黒須が投げた。

１回目より動きが速くなっているように感じた。

槍は５５mを越えた！

「やった！！」
子供と叫んだ。

「５５m５０cm」

再び３位に浮上した。

ここで上位８人が決まり、ほぼ６位入賞を決めたと確信した。
３位からいきなり４人に抜かれ７位にはならないだろう・・・と。

その後４投目に４位の選手が５９m６８cmのアーチを描きトップに。

黒須は４位となる。そして最終投擲者の選手が再び逆転、６０ｍ０１とスタンドを沸かせた！県大会で６２ｍを投げた黒須のライバルだ。

この時点で競技終了。
黒須は４位で見事関東入賞、奈良インターハイへの権利を獲得した。

★壮絶なり　　全国への道

「６位にさえなれれば・・・・」そう祈ってこの舞台に命がけで出場する選手がほとんどだろう。その必死な戦いぶりは痛いほど分かる。この瞬間に高校時代、いや中学からの全てをかけてやってきたと言っても過言ではないだろう。

各レースで、ゴール後倒れて動けない選手が続出した。
ある者は気を失いそうな選手もいたろうし、６位から漏れた絶望感から立ち上がれない選手もいたことだろう。

ただ私は、勝っても負けても「美しい姿」だと思う。
長い間、必死に練習に励み、関東の決勝という舞台に進み、ハイレベルな戦いを終えた超一流の高校アスリートだ。

★ ８００mという駆け引き

８００mというヨーロッパで大人気の競技に私は縁が無いが、実に頭脳戦を要する面白さがあると痛感した。

女子南決勝は２分８秒という好記録が生まれ、スタンドは沸いた。

南関東女子 800m

平成 21 年度関東高等学校陸上競技大会

決勝

[1] 2.08.47 松﨑 璃子 (2)市立船橋･千葉
[2] 2.12.34 伊藤 美穂 (2)川和･神奈川
[3] 2.12.34 財津 絵美 (3)市立船橋･千葉
[4] 2.12.55 中村 みづき (2)東海大望洋･千葉
[5] 2.12.58 小松 有梨 (3)敬愛学園･千葉
[6] 2.12.94 中澤 唯 (3)湘南･神奈川
[7] 2.14.53 佐々木 等未 (3)相模原総合･神奈川
[8] 2.28.22 今井 咲 (1)市川･千葉

しかしその直後、北の決勝では昨年の全国総体覇者・真下選手が走る。

いつものように、最初から独走。
全くスピードが落ちない。

そして見事２分７秒で走ってみせた。
「どうだ！」といわんばかりの快走にスタンドはどよめいた。
このレースを見せ付けられた南関東勢は、大きなプレッシャーを受けるだろう。勝った真下選手は、全く息が切れていない。
・・・・強い・・・

北関東女子 800m

平成 21 年度関東高等学校陸上競技大会

決勝

[1] 2.07.10 真下 まなみ (3)深谷商･埼玉
[2] 2.10.48 石井 まい (1)深谷商･埼玉
[3] 2.10.79 綾部 沙紀 (2)國學院栃木･栃木
[4] 2.11.06 越谷 奈都美 (2)新島学園･群馬
[5] 2.11.28 谷田部 遼 (3)水戸一･茨城
[6] 2.11.65 佐藤 茉侑 (2)熊谷女･埼玉
[7] 2.12.48 後閑 美由紀 (1)常磐･群馬
[8] 2.16.02 藤ノ木 詩織 (2)東京農大三･埼玉

男子８００m南関東決勝。
６位を目指して団子状態。１周目は１分かかった。
スタンドからも「これは最後の２００mレースだな・・」とみなが沸く。
やはり８人全員が残り半周からダッシュ。位置取りに失敗した選手が僅差で敗れる厳しい結果となった。

南関東男子 800m

平成 21 年度関東高等学校陸上競技大会

決勝

[1] 1.58.44 **川俣 佳人** (3)**木更津総合･千葉**
[2] 1.58.51 **田中 言** (1)**早稲田実･東京**
[3] 1.59.09 **宮島 直紀** (3)**専修大松戸･千葉**
[4] 1.59.11 **新川 翔太** (2)**相洋･神奈川**
[5] 1.59.13 **山本 郁平** (3)**佼成学園･東京**
[6] 1.59.33 **瀬古 天哩** (2)**東海大浦安･千葉**
[7] 1.59.51 **小宮 佳治** (3)**法政･東京**
[8] 2.04.96 **長谷川 拓哉** (2)**桐蔭学園･神奈川**

一方、それを見ていた北関東決勝。
最初からスピードを上げて、集団がばらける。

長く伸びた集団はそのままゴール。
「ああ、作戦でこんなにもレースが変わるのか・・・力は南北ともに拮抗しているだろうに・・・・」

北関東男子 800m

平成 21 年度関東高等学校陸上競技大会

決勝

[1] 1.53.90 **八木沢 元樹** (2)**那須拓陽･栃木**
[2] 1.54.05 **内山 浩貴** (3)**武南･埼玉**
[3] 1.54.30 **坂庭 大輝** (3)**城北埼玉･埼玉**
[4] 1.54.67 **仁平 裕也** (3)**真岡北陵･栃木**
[5] 1.55.59 **楠 康成** (1)**東洋大牛久･茨城**
[6] 1.57.00 **鮭川 俊貴** (3)**下妻二･茨城**
[7] 2.02.71 **登坂 眞貴幸** (3)**明和県央･群馬**
[8] 2.58.81 **姫松 裕志** (3)**前橋･群馬**

★南北同タイム　　男女２００m

１０分間隔でスタートするそれぞれの２００m決勝。
偶然にも男女とも、北と南の優勝記録はほぼ同タイムとなった。
いずれも奈良インターハイで決勝に上がってくるであろうメンバーであり、
好記録だ。関東予選は、当然のように全国の監督達が注目している。

南関東男子 200m

決勝

(0.0)
[1] 21.50 **女部田 亮** (3)**東京･東京**
[2] 21.57 **本間 圭祐** (2)**川崎市立橘･神奈川**
[3] 21.70 **嵐川 愛斗** (3)**東海大浦安･千葉**
[4] 21.72 **高澤 佑基** (3)**八王子･東京**
[5] 21.73 **藤原 達矢** (3)**川崎北･神奈川**
[6] 21.82 **嶺岸 拓磨** (3)**荏田･神奈川** **※着差なし･抽選により全国大会出場**
[6] 21.82 **谷口 文也** (3)**慶應･神奈川**
[8] 21.93 **三原 浩幸** (2)**千葉東･千葉**

北関東男子 200m

決勝

(+0.4)
[1] 21.51 小林 靖典 (3)高崎経済大附･群馬
[2] 21.53 手塚 嗣音 (2)國學院栃木･栃木
[3] 21.56 小林 優仁 (3)前橋育英･群馬
[4] 21.68 石川 直人 (3)桐生南･群馬
[5] 21.78 小杉 俊裕 (3)埼玉栄･埼玉
[6] 21.86 中村 圭佑 (3)東洋大牛久･茨城
[7] 21.94 竹内 優太 (3)浦和･埼玉
[8] 21.99 前野 景 (3)東京農大三･埼玉

南関東女子 200m

決勝

(-0.3)
[1] 24.58 田代 成美 (3)成田･千葉
[2] 24.79 山本 優香 (2)早稲田実･東京
[3] 24.96 長谷川 美里 (2)荏田･神奈川
[4] 25.05 城下 阿李奈 (3)白山･神奈川
[5] 25.22 渡辺 多恵 (3)市立船橋･千葉
[6] 25.38 武田 亜由美 (3)新栄･神奈川
[7] 25.40 金子 歩未 (3)東京･東京
[8] 25.49 松野 佳奈 (3)甲府商･山梨

北関東女子 200m

決勝

(+0.2)
[1] 24.59 **福田 智美** (3)**竜ヶ崎一･茨城**
[2] 24.80 **五十嵐 由香** (3)**富岡東･群馬**
[3] 25.02 **前橋 愛歌** (2)**國學院栃木･栃木**
[4] 25.21 **萩原 さやか** (3)**埼玉栄･埼玉**
[5] 25.29 **中澤 彩圭** (1)**武南･埼玉**
[6] 25.33 **柳澤 朋恵** (3)**前橋女･群馬**
[7] 25.45 **新井 祐理菜** (3)**前橋西･群馬**
[8] 25.58 **稲葉 美帆** (3)**越谷総合技術･埼玉**

★ 奈良への道

黒須はついに全国総体への道を自ら勝ち取った。

春高にとって３０年ぶりの「槍投げでインターハイ出場」

新規格になってから四半世紀が経つので、実質は「初」のようなもの。

今大会は、６３mの力を持つ１位の選手が６０mほどだから、この天候の影響はマイナス２～３mというところか・・・試合直前には、「県よりはいいです」と言っていたので、実質５７mくらいまで回復し、自己記録の５９m台も見えてきた。そして黒須の大きな魅力は「大負けしない」事。
これは後藤も奥岡も同様だったが、順位を狙うべき試合で、想定外なほど調子を崩さないところ。コンディションも上向いている。

「ボールを１００m投げるひと」は、うちのチビたちもひそかに期待している。「だって校庭を飛び出すくらいボールを投げられるんだから・・・」　そう、決しておおげさな話ではない。

「槍投げ６０m」ということ事態、超人的な数値なのだ。

筆　撮　　のもと